



筒瀬つつせ

江戸時代以前から厳島神社の社領
筒瀬八幡神社は市重要有形文化財



太田川左岸から見た筒瀬八幡神社の社叢

地区の歴史

戦国時代に「つゝせ」の地名が見られ、安芸国佐東郡のうちとなつていきます。地名の由来については明らかなものはありません。安岐国造が安芸国を支配していた当時の筒瀬は佐伯部氏の郷として「若佐郡」と呼ばれていました。(筒瀬小学校百周年記念誌) これらのことから、江戸時代以前から厳島神社の社領としての性格が強かったようです。

筒瀬村は明治22(1889)年4月に後山村、毛木村、宮野村と合併し日浦村となりました。その後、数度の郡や村の廃置分合を経て、昭和55(1980)年に広島市安佐北区安佐町大字筒瀬となり、現在に至っています。

安芸木綿を生産

江戸時代の産物としては、当時の年貢として納められた「安芸木綿」

は筒瀬でも多く生産され、コウゾ、ミツマタ、ガンピを原料にして作られた布で、当時は貴重品でした。また、「後山行李こうりに筒瀬籠か」と言われ、籠などの竹製品を製造し、諸口紙もろくちがみ、半紙も生産していました。太田川では舟運も行われていました。

地域内には広島市の重要有形文化財の筒瀬八幡神社があり、また、同社境内の社叢林は広島市の天然記念物にも指定され、貴重な自然植生を残しています。

進む開発

昭和46(1971)年には広島中央ゴルフ場(現広島安佐ゴルフクラブ)が、また昭和59(1984)年には広島市の家庭ごみの最終処分場(玖谷埋立地)建設の合意がなされ、筒瀬が脚光を浴びることとなりました。その後、玖谷ごみ埋め立て事業に関連した地元対策事業により筒瀬地区は大変革を遂げ、住民の生活環境が大きく変化しました。

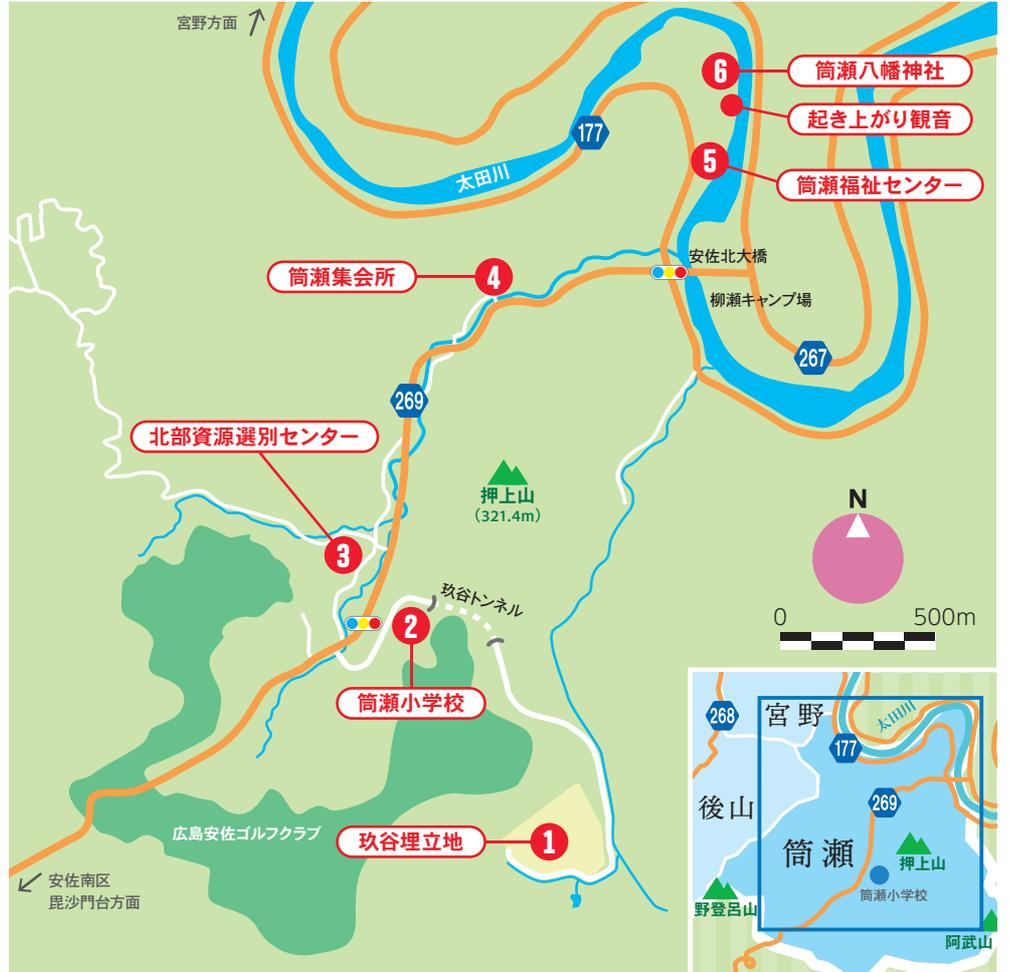




市の家庭ごみ最終処分地 焼却灰を埋立処分

1 玖谷埋立地

広島市の家庭ごみの最終処分地として平成2（1990）年から埋め立てが始まり、今日まで約32万㎡が埋め立てられている。
ここでは、不燃ごみと可燃ごみを焼却した後の灰（焼却灰）等について埋め立てを行っている。



くだにうめたてち

平成17（2005）年に埋立容量を増やし、埋立期間を15年延長。これまで約180万トンの廃棄物を埋

が行われました。

区内の道路や上水道、農業用水路等の整備、日浦東小学校（現筒瀬小学校）の移転新築、集会所の建設、バス路線の整備、筒瀬総合福祉センターの建設などの地域環境整備事業が行われました。

7月、埋立地建設に合意しました。

埋立地を受け入れるにあたり、区内の道路や上水道、農業用水路等の整備、日浦東小学校（現筒瀬小学校）の移転新築、集会所の建設、バス路線の整備、筒瀬総合福祉センターの建設などの地域環境整備事業が行われました。

半、市から埋立地建設に関する申し入れがあり、筒瀬親和会が市と協議を行いながら地区住民間で議論を重ねました。

当地区の住民としては心情的には受け入れがたいが、市民生活の基盤を支える必要不可欠な施設であり、地域環境の整備を進めながら地域の発展と住みやすい地域づくりに取り組みとして、昭和58（1983）年

7月、埋立地建設に合意しました。

埋立地を受け入れるにあたり、区内の道路や上水道、農業用水路等の整備、日浦東小学校（現筒瀬小学校）の移転新築、集会所の建設、バス路線の整備、筒瀬総合福祉センターの建設などの地域環境整備事業が行われました。

玖谷埋立地と歩む

立処分しました。令和2（2020）年3月末でその役目を終える予定でしたが、佐伯区湯来町に建設している次期埋立地の竣工が遅れているため、玖谷埋立地の使用期間の延長の申し入れがありました。二度目の埋立期間の延長に、次期埋立地の建設が進められていることや今までと同様に市民生活に貢献していくため、

苦渋の決断ながら埋立期間の延長に合意しています。令和3（2021）年には埋立処分が終了する予定です。その跡地はサッカー場やグラウンドゴルフ場としての活用が計画されています。

筒瀬地区には玖谷埋立地と同じ時期に開設された資源ごみの選別を行う北部資源選別センターがあり、玖谷埋立地が埋立終了後も稼働し続ける予定です。

玖谷埋立地が開設されてからの30年間、筒瀬地区は広島市のごみ処理の重い負担を背負ってきました。埋立が終了すると玖谷埋立地のない筒瀬地区の地域づくりが始まります。

筒瀬新和会は、跡地を地区内外の人が集まる地域おこしの拠点として将来の地域の発展に寄与するよう、市へ働きかけていきたいと考えています。

玖谷埋立地は毎日の生活の中で出る不燃ごみと可燃ごみを焼却した後の灰（焼却灰）等を埋立処分する施設です。平成2（1990）年4月に埋立処分を開始し、今年度末で30年を迎えます。

施設建設にあたり昭和50年代後半、市から埋立地建設に関する申し入れがあり、筒瀬親和会が市と協議を行いながら地区住民間で議論を重ねました。

玖谷埋立地は毎日の生活の中で出る不燃ごみと可燃ごみを焼却した後の灰（焼却灰）等を埋立処分する施設です。平成2（1990）年4月に埋立処分を開始し、今年度末で30年を迎えます。

施設建設にあたり昭和50年代後半、市から埋立地建設に関する申し入れがあり、筒瀬親和会が市と協議を行いながら地区住民間で議論を重ねました。

玖谷埋立地は毎日の生活の中で出る不燃ごみと可燃ごみを焼却した後の灰（焼却灰）等を埋立処分する施設です。平成2（1990）年4月に埋立処分を開始し、今年度末で30年を迎えます。

施設建設にあたり昭和50年代後半、市から埋立地建設に関する申し入れがあり、筒瀬親和会が市と協議を行いながら地区住民間で議論を重ねました。

木造校舎で豊かな自然環境を
生かしたユニークな学習が注目
区域外からも入学可能な
オープンスクール

2 つつせしょうがっこう
筒瀬小学校

筒瀬小学校は戦後に日浦東小学校と校名が変更されたが、平成2(1990)年には再び筒瀬小学校となり、現在地に木造校舎として移転した。平成10(1998)年からはオープンスクールとして地元以外からも児童を募集し、ユニークな教育が注目されている。



地域の福祉施設
飯室出身の画家のギャラリーも

5 つつせふくしせんたー
筒瀬福祉センター

平成23(2011)年度に地域の福祉施設として広島市が設置した。日浦地区を中心として利用されている。施設内には飯室右平地区出身の画家、佐々木邦彦氏のギャラリーが設けられている。



地区内唯一の集会施設
照明施設完備のテニスコート

4 つつせしゅうかいしょ
筒瀬集会所

筒瀬地区唯一の集会所で、筒瀬川沿いにあり、テニスコートが併設されており、夜間の照明施設も完備されている。



家庭からの資源ゴミを分別
自己搬入も可能

3 ほくぶしげんせんべつせんたー
北部資源選別センター

平成25(2013)年に作られた施設で家庭から出た資源ゴミを集め、紙類、布類、アルミ類、鉄類、生ビン、ガラス類に分別する施設です。資源ゴミは直接資源選別センターへ自己搬入することができる。

流された観音様の言い伝えを信じ
水中から引き上げた不思議な石



起き上がり観音

この地区では古くから川の上流にあった観音様が災害で太田川に流され、「川の水は冷たい。早く引き上げてくだされや。重い体ではあるが、もみ殻俵一俵の重さになります。弘法岩の下手で待っております」という言い伝えがあったと言われる。

平成3年の夏、信仰心の厚い可部在住の中本進氏が鮎釣り中、異様な岩にふと気づき、目を凝らして見ると見えなくなる不思議な因縁に時を過ごし、石の全容を確認し仏縁の尊さに全身に硬直を覚えた。

その後、有志にはかり、秋には水中から引き揚げて筒瀬部落の守護神として尊崇する事となったという。

(石碑に刻まれた由緒による)



すぐ横を太田川が流れる
鎮守の社は市の天然記念物

6 つつせはちまんじんじゃ 筒瀬八幡神社

鳥居の正面に拝殿と本殿がある。その奥が広島市の天然記念物に指定されている広葉樹の古い森(社叢)がある。境内は狭くすぐ東側を太田川が流れている。
左の写真は拝殿

筒瀬地区にある重要有形文化財と天然記念物



筒瀬八幡神社の本殿

(広島市重要有形文化財)

本殿の腰組がこの地方では見られない大規模社寺建築に見られるような精巧な構造になっている。専門的には、三手先(三方に回した縁を支えるために組物を三段持ち送った形)で構成されている。

指定時の調査者は「彫刻の絵模様から見ても江戸中期の様式を十分に表している。向拝上の臺股や妻飾大瓶束等は時代の代表として優たるものである。特に腰組の立派なことと向拝の臺股及び大瓶束は江戸中期の良作と思われる」と述べられている。

筒瀬八幡神社の社叢 (広島市天然記念物)

昭和52(1977)年に広島市の天然記念物に指定されている。

社叢の広さは南北60m、東西40mでわずかではあるが、この地方の潜在植生と考えられる植生が見られ貴重なものとなっている。

高木にはアラカシが優先し、タブノキ、ナナメノキ、シロダモ等が多い。低木にはアラカシ、ヤブツバキ、ネズミモチ、アオキ、イヌビワなど暖帯系の植生となっている。

■ 樹木の胸高幹周と本数 (広島市天然記念物指定時・昭和52年)

アラカシ (1.25~2.00m、10本)	タブノキ (2.82~3.10m、2本)
アカガシ (1.5m)	クスノキ (2.48m)
ナナメノキ (1.10~1.42m、2本)	エノキ (2.67m)
クロガネモチ (1.83~1.97m、2本)	

